

平成31年度 東京都立日比谷高等学校

推薦に基づく選抜

小論文

(注 意)

- 1 問題は、2ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は**50分**で、終わりは**午前9時40分**です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えをすべて解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出**しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受検番号**を解答用紙の決められた欄に記入しなさい。

次の枠に囲まれた文章は、フランス革命期（1789年～1799年）において、当時のフランスの言語状況に関する問題を提起する議会で演説である。フランス革命は歴史学研究において、身分制社会にもとづく地方分権の社会であった近世という時代から、人間の自由と平等の原則にもとづいて中央集権型の国家を目指す近代という時代への転換点と位置づけられており、日本の歴史に例えるならば1868年の明治維新に相当するものと言える。そのフランス革命期には、ほかにも、古い行政区画（旧州）の廃止や、メートル法の採用などさまざまな改革がおこなわれていた。また、フランス革命期には、フランスを取り巻く国々との間で常に戦争状態が続いており、自由と平等というフランス革命の原則を達成するためには、対外戦争に勝利する必要があることにも注目する必要がある。次の問1と問2に答えなさい。

問1 枠に囲まれた文章を読み、フランス革命当時のフランス社会において、30もの地方語があることがなぜ問題とされているのだろうか。図1を参照しながら80～100字で説明しなさい。

問2 枠に囲まれた文章の状況から約70年後のフランスの言語状況を示す図2を見て、枠に囲まれた文章のような状況から変化があったのかどうかを明記したうえで、自分が1863年当時のフランスにおける首相であったならば、何を目的として、どのような政策を実行するのかを考えて、460～500字で論じなさい。その際、その政策をおこなうことによって生じる長所と短所をそれぞれ一つずつあげて説明すること。

「わが国には、いまだにおよそ30もの地方語が存在する」

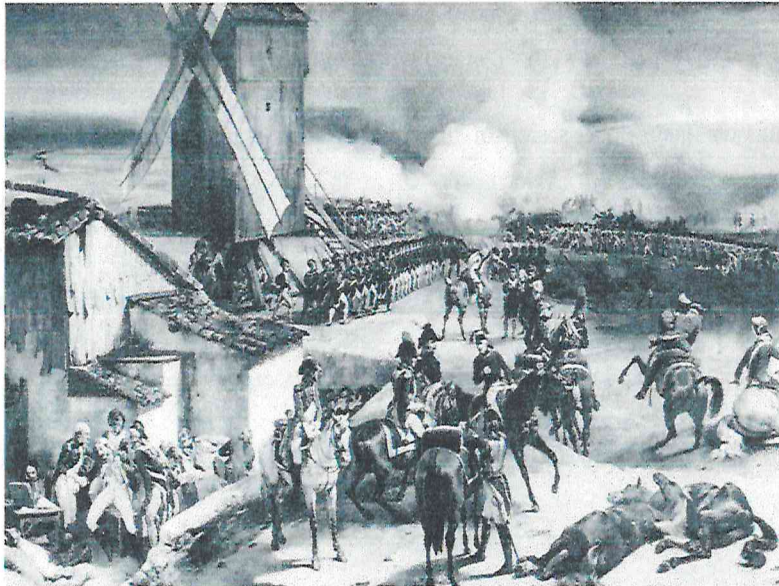
フランス語は、ヨーロッパの尊敬を勝ち得たし、1世紀も前からフランス語は、ヨーロッパにおいて権威のあるものとなった。私の目的は、フランス語にこの特質を与えた原因を求めることではない。……もはや、旧州は存在しない。しかし、いまだに、旧州の名前を思い起こさせるようなおよそ30あまりの地方語が存在する。おそらく、それらを数え上げるのも、無用なことではあるまい。バ＝ブルターニュ語、ノルマンディー語、ピカルディー語、ルシ語、ヴァロニー語、フラマン語、シャンパーニュ語、メッス語、ロレーヌ語、フランシュ＝コンテ語、ブルゴーニュ語、ブレス語、リヨネ語、ドフィネ語、オーヴェルニュ語、ポワトゥー語、リムーザン語、プロヴァンス語、オック語、ヴェレー語、カタルーニャ語、ヴェアルネ語、バスク語、ルエルグ語、ガスコーニュ語。〈中略〉 数々の地方語に、コルシカとアルプ＝マリティームのイタリア語、オ＝ラン県・バ＝ラン県のドイツ語をつけ加えなければならない。〈中略〉 誇張でもなく、600万人のフランス人が、特に、農村においては、国民言語を知らないということを断言することができる。それと同数のフランス人が、筋道の通った会話に耐え得ないこと、その結果として、国民言語を話すことができる人口が30万人を越えないこと、そしておそらくそれを書くことができる人口は遙かに少数であることも断言できる。

こうして、さまざまな30もの地方語によって、われわれは、言語に関してなおもバベルの塔（*注）の状態にありながら、他方では、自由に関して諸国民の前衛を形成しているのである。（1794年6月4日）

*注 バベルの塔：旧約聖書に登場するバベルの町に建てられた塔。神の怒りに触れて破壊された。

その際、神は人々の言語をバラバラにしたとされる。

（歴史学研究会編「世界史史料6」より作成）



フランス革命期の1792年9月20日に、義勇兵からなるフランスの革命軍がオーストリア軍などに勝利をおさめた戦い。義勇兵はフランスの様々な地域から集められていた。ここに見られるように、フランス革命政府はプロイセン・オーストリアをはじめ、イギリス・オランダ・ロシアなど、ほぼ全ヨーロッパの国々との大戦争を戦っていた。

図1 ヴァルミーの戦い

(竹中幸史「図説フランス革命史」より作成)

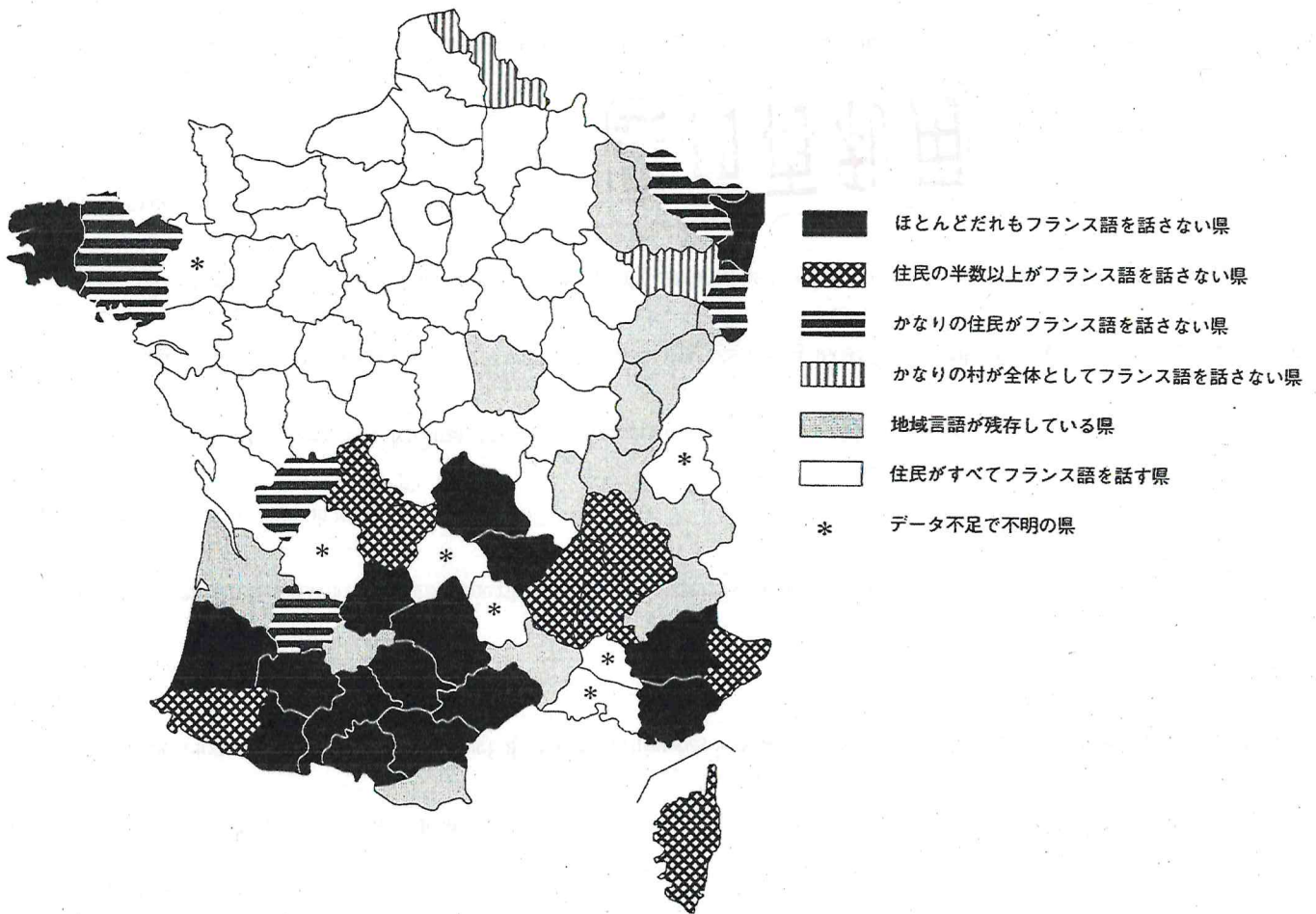


図2 1863年のフランスにおける、フランス語を話さない人口の分布
(柴田三千雄、樺山紘一、福井憲彦編「世界史大系フランス史3」より作成)